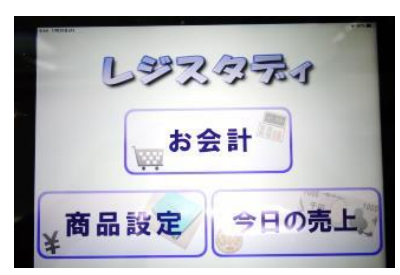
支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成 30 年度 作業製品の販売時におけるICTツールの活用
授業について	教科名等	□国語　□社会　□算数/数学　□理科　□生活　□音楽　□図画工作/美術　□家庭/技術・家庭　□体育/保健体育 □特別の教科　道徳　□外国語/外国語活動　□総合的な学習の時間　□特別活動　□自立活動　□各教科等を合わせた指導 □その他の教科　■その他（　作業学習　）
	単元・題材名	作業製品の販売をしよう
	授業の目標	作業製品の販売の時間に、iPadおよびレジアプリを活用して、レジ係を担当する。
	学力の3要素	■「知識及び技能」 ■「思考力・判断力・表現力等」 ■「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	□通常の学級　□通級による指導　□特別支援学級　■特別支援学校 □就学前　□小学生　■中学生　□高校生以降 □特定されない 中学部1年　1人
	対象の障害	□視覚障害　□聴覚障害　■知的障害　□肢体不自由　■病弱・身体虚弱　□言語障害　■自閉症 □情緒障害　□LD（学習障害）　□ADHD（注意欠陥/多動性障害）　□その他
	子供の困難さ	□見ること　□聞くこと　■話すこと　■読むこと　■書くこと　□動くこと　■コミュニケーションをすること　□気持ちを表現すること □落ち着くこと・集中すること　□概念（時間、大きさ等）を理解すること　□学習（計算、推論等）すること　□その他 ○【教育的ニーズ】手順を覚え、その通りに着替える。挙手をしたり、事前に確認したりしてから発言する。進んで活動完了の報告をする。 ○【本人の願い】「パソコンの操作ができるようになりたい」
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援（■A1意思伝達支援　□A2遠隔コミュニケーション支援） B活動支援（■B1情報入手支援　■B2機器操作支援　□B3時間支援） C学習支援（□C1教科学習支援　■C2認知発達支援　■C3社会生活支援） D実態把握支援（□D1実態把握支援） 作業製品の販売の時間に、iPadおよびレジアプリを活用して、レジ係を担当する。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	○iPad ○アプリ：レジスター 
授業展開	授業展開・支援の手立て	電卓とレジアプリを使用して、簡単な金銭の計算練習を実施した。電卓を使用した場合とアプリを使用した場合で、同じ①～⑤の順で釣り銭計算に取り組んだ。①1品と同額で支払う。②1品の釣り銭を計算する。③同じ金額の2品の釣り銭を計算する。④金額の異なる2品の釣り銭を計算する。⑤金額の異なる3品の釣り銭を計算する。 金種の違いは理解しているが、電卓の操作方法（100円を打ち込む場合には、1・0・0と押す等）や釣り銭の計算手順を理解するのが難しく、②以降は「難しい」と言いながら、教員の言葉掛けや指差しの支援を受けて取り組んだ。レジアプリでは、操作方法を覚えて、教員の言葉掛けで①～⑤に取り組んだ。 製品販売の当日は、iPadおよびレジアプリを活用してレジ係を担当した。教員からは製品名と預かった金額を言葉で伝えて支援した。お客さんとのやりとりを繰り返す中で、少しずつ教員の言葉かけが減り、自ら14種類の製品写真や品目名、金種写真を見比べて、iPadを操作しながら釣り銭の計算をすることができた。 本人も「簡単」「使いやすいです」と感想を述べ、達成感を味わいながら販売活動に取り組む様子が見られた。
効果・評価	子供の様子や変容 および授業の評価	障害の特性により、今まで取り組む事が難しい活動や学習についても、支援機器を活用し、困難さを取り除き、個人の状態に合わせることで、より活動や学習場面を拡げることができると思われる。今回の取り組みでは、苦手としていた課題について、視覚的な情報を多く取り入れて、手順を分かりやすく示し、本人が操作して正答が瞬時に得られることで、間違えてしまう不安を取り除き、達成感を味わうことができたと考える。 知的障がいのある生徒に対しても、支援機器等で環境を整えることで、社会生活の充実や職業選択肢を拡げていく可能性を期待できる。